

# まんさく

第301号

社会福祉法人 光寿会  
まんさく編集委員会  
和賀郡西和賀町湯本30-76-1  
TEL 0197-84-2526  
koujhu@fancy.ocn.ne.jp  
題字 元理事長 太田 祖 電



錦秋湖マラソンのランナーたちにお年寄りたちが大応援♪ 《5月26日》

5年ぶりにランナーの間近で応援！ランナーの足音も聴きながら興奮の応援団♡ [関連：6頁]

## 301号『まんさく』もくじ

☆2頁★

\*ひやりはっと及び事故まとめ  
〔令和5年度下半期〕

☆3頁★

\*想…災害を捉える

☆4頁★

\*地域密着型事業紹介  
\*寄附・寄贈・訪問等紹介 等

☆5頁★

\*元気です！家族会♪  
\*「共生の場」へようこそ♪  
〔新入居者のご紹介〕

☆6頁★

\*「光寿苑の日々」(4コマ漫画)  
\*「自然法爾」(お寺さんのお話)  
\*「おわりに」

【ひやりはっと及び事故まとめ】(令和5年度下半期)

合計『195件』  
上半期比『29件増』

所見	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
<b>内出血</b>	11	9	10	11	7	5	<b>53</b>
表皮剥離		1	3	1	3	1	9
擦り傷	1			4	3	1	9
切り傷				1	4	2	7
掻き傷	2		2				4
創傷			1	1		1	3
爪外傷	2			1			3
打撲		1			1		2
<b>無し</b>	17	15	21	20	13	19	<b>105</b>
合計	33	26	37	39	31	29	195

事故内容	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
<b>外傷</b>	17	12	17	18	17	11	<b>92</b>
<b>転倒・転落</b>	7	9	9	10	9	13	<b>57</b>
<b>与薬</b>	5	4	7	5	2	4	<b>27</b>
管理ミス	2	1	3	1			7
紛失・破損	1		1	1	1	1	5
見守りエラー	1			2	1		4
異食				1	1		2
誤嚥・誤飲				1			1
合計	33	26	37	39	31	29	195

場所	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
<b>居室</b>	24	17	25	28	16	19	<b>129</b>
浴室	2	1	3	2	5	2	15
トイレ	3	4	2	1	3	1	14
廊下		1	3	2	2	2	10
ホール			1	3	3	3	10
湯の町茶の	2		1		1	1	5
大通り居所		2		1			3
介護室				2			2
せせらぎ	2						2
ベッド			1			1	2
エレベータ					1		1
外出先		1					1
配膳室			1				1
合計	33	26	37	39	31	29	195

事故発生時間帯	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
06:00 ~ 08:00	6	2	4	3		5	20
08:00 ~ 12:00	7	8	11	10	9	8	53
<b>12:00 ~ 18:00</b>	9	6	13	12	15	7	<b>62</b>
18:00 ~ 22:00	8	5	6	10	3	2	34
22:00 ~ 06:00	3	5	3	4	4	7	26
合計	33	26	37	39	31	29	195

要介護度別	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援Ⅱ	1						1
要介護Ⅰ	2	1				1	4
要介護Ⅱ	1	1	1		2		5
要介護Ⅲ	5	9	14	16	12	9	65
<b>要介護Ⅳ</b>	15	10	13	13	7	13	<b>71</b>
要介護Ⅴ	9	5	9	10	10	6	49
合計	33	26	37	39	31	29	195

令和5年度下半期に発生したひやりはっとは、合計が195件となり、上半期に比べ29件増加した。年間の発生件数は361件となり、昨年度369件と比べてほぼ変わりのない推移となった。下半期に見られた特徴としては、「転倒・転落」57件(直近3年間で2番目に多い)と、「与薬」27件(直近3年間で最多だった16件を大きく上回る)が挙げられる。

「転倒・転落」については、33%が上位2名のお年寄りに発生しており、非常に活動的となる体調の変化や、独力で施設内を歩行するお年寄りの生活パターンに対し、十分に対応しきれなかった側面が浮かび上がる。

「与薬」については、実人数で16人の方々に与薬忘れや服薬確認ミスが生じたことから、特に自分で服薬できる方たちの服薬や保管方法について、手順管理の徹底が求められている。またその内6人がショートステイ利用者であり、且つ最多の7件を長期利用者が記録していたが、実際の対応は自宅へ戻る状況を視野に入れつつ、“必要最小限の介助”を状態に合わせてながら都度見直していった為、お年寄りの力を『活かす』という法人の方針には沿っていたものと評価できよう。

# 想...

## 災害を捉える 宮城県から発信します⑨

### 『3.11 [3]』 白木澤 琴 氏



9回目となります宮城県の僧侶・白木澤琴さんのご執筆です。今回も3.11の厳然たる現実が語られます。13年超の今、再び思い返してしかと読みました。

# 3.11 [3]

3月13日、10キロ近く離れた東松島に住むご門徒さんや、自転車でご血相を変えて来て下さった。

「昨日はご法事頼んでなのに、連絡しないで行けなくて申し訳ありません。」

と深々と頭を下げられた。状況が状況なだけに、恐縮する私たちが、すると繞っておっしゃったのが、

「地獄を見てきました。」

この方は、ご自宅に大きな被害はなかったが、仕事で女川町に行っていた際に被災。津波が来るといので、かなりの高台にある病院に避難したものの、その一階にまで津波が到達したのだと。車は流されてしまった。水が引いた後、30キロ以上の険しい道のりを、時にご遺体をよけながら歩いて帰宅し、真、先にお寺に来て下さったのだ。それが、私たちが初めて生で聞いた沿岸部の凄まじい状況だった。

3月23日。遠縁の親戚が津波で

お七くなりになり、東松島高校体育館のご遺体安置所へ、父と二人でご遺体引き取りの立ち会いに伺った。

まだ、ぬかるむ校庭。張り詰めた空気が漂っていた。中に入ると、パネルで囲まれた狭い空間があった。そこには膨大な量の名簿が張られていた。そこに記されていたのは、七くなられた方々の特徴だった。祭見場所、推定年齢、頭髪の色、長さ、服装・所持品。血眼になって眺めている人もいれば、

「ここにも居ぬかた。」

と、悲しい笑みを浮かべて出ていく方もいた。そして、そのパネルの向こう側には、45、50歳の白木の棺が整然と並んでいたのがある。すべてご遺体だなんて；信じたくもない光景がそこにあった。

実は行くまでの間に、私は父ともめていた。それは、間衣を着ていくか否か。私は、僧侶として衣で行くべきでは！と提案するも、父は反対。そこ

にいらっしやる方々の心情を思い葛藤。議論する中、普段は穏やかな父が、大きく声を荒げた。

「みんな、家族が生きて欲しいかと思いなやら、泥まみれになって、涙流して探している中で、キレイな格好して、坊さんの格好して行けっか！オレは行けねえぞ！」

二人で、今まで着ていたジャージに長靴を履き、お念珠だけを持って現場に向かった。父の、「寄り添う姿勢」だったのだと、今では思う。それが正解というものは無いのだと思う。

父も私も、せめて枕経をと思いい向かったが、身も心も凍るような感覚と静寂の中、ただただ、

「南無阿弥陀仏。」

続々...

玉蓮寺

白木澤琴

今月の登録者の方々  
14名様です♪

小規模多機能ホーム「ひなたぼっこ」  
住宅型有料老人ホーム「湖畔の宿」

いよいよ皆様元気♪「ひなたぼっこの日常」



④ 『お茶会 … しおり作り』

⑤ 『お茶会 … ゲームの時間』

第1回『運営推進会議』(5月23日)

④ 外部委員9名  
 委1 法人事業計画の中、「上司不在で決められないのではなく、お年寄りにとっても良い事であれば、その場にいる職員で判断し実行できる」とあります。本当に大事なことは、利用者のご家族にとっての雇満足度というものがある。今、これをやって欲しい”  
 と言われた時、施設長がいないのでダメです、できませんではないと思います。もちろん許可なしでの行動についての許容範囲はあるでしょうし、事後報告が見直し等の確認が大事であり、その中で利用者様を大事にする、対応できる事が大切だと思います。

⑤ 湖畔の宿の入居職員数名出席  
 者に何かあった場合、夜間帯などは管理宿直者対応ですか？  
 ⑥ 管理宿直者も最初の対応となりますが、急変等による対応が必要な場合は宿直者から職員Aへの一報としていきます。それにより出勤します。

⑦ BCP(業務継続計画)のお話があります。委員に、我々職員にも教えて頂けますか？  
 ⑧ 次の会議にお示ししたいと思います。

⑨ 私たち委員もその計画においてお手伝い、協力ができる事あればと考えています。例えば車いすの方を小学校等に避難させても、トイレの問題等いろいろ課題が出てきます。一般避難所とは別に、福祉を交えた計画が必要。

おかげさまでした

寄贈

★=光寿苑  
☆=ひなたぼっこ

- ★ (株) 彩の国 様 [新 町]
- ☆ 高橋 美智子 様 [上野々]
- ☆ 羽 柴 陽 子 様 [上野々]
- ☆ 梨子下 深幸 様 [上野々]
- ☆ 高橋 瑠璃 様 [川 尻]
- ☆ 高橋 ちづ子 様 [下 前]
- ☆ 三 上 正 様 [滝沢市]
- ☆ 有 馬 正 興 様 [仙台市]

面会・外出 [5月1日~31日]

【対面面会】 延べ75名 (対象入居者29名)



光寿会へのご支援

# 元気です！家族会♪

## 第116回



家族会副会長  
佐々木忠雄

116回目も家族会役員・佐々木忠雄さんの投稿でございます(^\_^) 前回の「用水路」完全版をお届け致します！

### 『用水路(完全版)』

気がつくくと水の中に居た。さっきまで姉たちを追いかけたのに。山菜を採るために姉三人が山に行くのを私は追いかけていた。でも私はまだ未就学で、姉たちも最初から私を連れて行く気はなかった。そのため後をついてくる私に「帰り」もしくは言わなかつたようだ。(今となると姉たちの記憶もあやふや。長女に至っては、「私居たっけ？」と言っ始末)結局、置いて行かれた私は直ぐには家に帰らず、用水路の近くで遊んでいたのだらう。気がつくくと用水

路の中に転落していた。どこから落ちたのか。今になっても全く思い出せない。用水路には春先の雪解け水がとても冷たかった。用水路の壁面に自生する草を掴んでもホロホロ取れてしまい、水中から体を持ち上げようも不可能。つま先立ちしない水面から口が出せず、下流へ流されてしまう。私はパニックに陥り大声で泣き叫んだが、どこからも返事は返ってこない。どの位の時間が経ったのかは分からないが、用水路の縁に人の顔が見える。誰かは分からなかったが、必死に助けを求めると手を差しのべてくれた。その時の記憶はほとんどない。気がつくはずぶぬれで家に帰り、母には、「以前流されて亡くなった人がいて、その犠牲のおかげで助けられた。感謝して生ざろ」と。何回母に心配掛けるのかと反省。 (続)

# 『共生の場』へようこそ♪

【光寿苑の新しいお仲間のご紹介となります】



高橋 強さん  
\*西和賀町  
\*昭和のお生まれ



有馬ミドリさん  
\*西和賀町  
\*昭和のお生まれ



高橋 ツネさん  
\*西和賀町  
\*昭和のお生まれ

# 光寿苑の目々 301号



イラスト：1000

ベッド上から応援したお年寄りも  
含めて、5年ぶりに間近でランナ  
ーに声援を送った皆さん。目の  
前を走るランナーたちに、活気あふ  
れた光寿苑応援団だった地、全  
力で飛ばし過ぎて途中で失速。  
それでも喜びの時の余韻が残る。

## 枝を拳げ林檎の花の径となる

### 竹本白飛

#### 第100回 丸田善明 自然法爾

リンゴ畑を越えた先にある  
友の家を訪ねようとして、広  
いリンゴ畑に踏み込んでいた。  
畑に立ち並ぶ、よく手入れさ  
れたリンゴの樹には、淡い紅  
を包んだような白い花が咲き  
競い、小さな蜂たちが蜜を求めて飛び交って  
いる。

リンゴの樹林に分け入ると、下草の原には農  
家の人々たちによって踏みしめられた足跡が怪と  
なっていて刻まれている。その怪を借りて、背をこ  
ごめて進む私の目の前に張り出したリンゴの木  
の枝が、遮るように通せんぼする。  
思わず目を上げて、その枝を押し上げたその  
途端、私はリンゴの花の香りに掴まっていた。

腰を伸ばして左右を見回す  
と、何処までも抜がるリンゴ  
の花々や、相変わらずほのか  
な香りを振り撒きながら私を  
取り囲んでいる。

竹本白飛は神戸の人。若い時、岩手師範の教  
授として盛岡に赴任したところ、黒石野のあたり  
にはリンゴ畑が広がっていた。

白飛は戦時中、農家の支援のため師範の生徒  
を連れて旧沢内村(現西和賀町)に長期滞在し  
ていた。戦後は岩手大学の哲学教授となった。  
俳人としても知られ、多くの香句を残した。  
筆者の哲学の師である。

### おわりに

300号到達を機に、これまで  
の8頁から6頁に減らしてみた。  
以前には10頁で出していた事もあ  
ったが、毎月8枚の中味を埋める  
難しさを察していただけに、ここ  
が良きタイミングと思いい変更した。  
これまでのものを減らすという  
のは一見、「カガおとろえた」と書  
くかや創造力の低下し等と思うとこ  
ろもあったが、外側が大きくても中  
味が薄っぺらでは、読み手の方にも  
失礼だという思いも出てきたのだ。  
だから私の中では「減らす、下降し  
ていうイメージよりも、マ身の丈に  
合った中味に整える」という感覚  
でいるのだ。  
年を重ね、できない事が増えても、  
自分のできる事を専ら入りたい。

